

随時記者発表

タイトル	(速報値) 咽頭結膜熱及び水痘の流行について		
区分等	発表	説明者	
	資料配付		
配付資料	別紙のとおり		
発表要旨	浦河保健所管内で咽頭結膜熱及び水痘が流行していることから、警報（咽頭結膜熱）及び注意報（水痘）を発令しますのでお知らせします。		
報道に当たってのお願い	住民に対し、手洗い、うがい、十分な栄養と休養をとり体の抵抗力をつけるなど感染予防の呼びかけをお願いします。		
担当	北海道日高振興局保健環境部保健行政室（北海道浦河保健所） 健康推進課長 明瀬 雅子 電話 0146-22-3071		

(速報値) 水痘 (みずぼうそう) の流行について (注意報)

令和元年 (2019年) 6月11日 (火) 15時00分

北海道日高振興局保健環境部保健行政室
(北海道浦河保健所)
電話: 0146-22-3071

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和元年 (2019年) 第23週 (令和元年 (2019年) 6月3日~6月9日) において、浦河保健所管内の定点医療機関あたりの水痘患者報告数が、注意報基準である1人以上となりましたので、まん延を防止するため注意報を発令します。

今後、浦河保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 水痘の感染予防

水痘の原因病原体である水痘-帯状疱疹ウイルスは飛沫核感染 (空気感染) するため、患者との接触を避ける以外に有効な予防法はありません。平成26年10月より水痘ワクチンが定期接種となっており、1回の接種により重症化を、2回の接種により発症を防げると考えられています。

学校保健安全法施行規則により、全ての発疹がかさぶたになる (痂皮化) まで出席停止と定められています。

2 水痘とは

水痘は、水痘-帯状疱疹ウイルスの初回感染によって引き起こされる疾患で、感染成立後約2週間程度の潜伏期間を経たのちに発疹・発熱などの症状が出現します。多くは発疹がかさぶたになって (痂皮化) 治癒しますが、一部は脳炎・肺炎・肝炎などを合併し、重症化することもあります。治癒した後もウイルスは神経節に潜み、のちに帯状疱疹を引き起こす原因となります。

とくに抵抗力の弱い乳幼児や高齢者、薬剤などの影響で免疫力が低下している人が感染した場合、重症化しやすいので、注意が必要です。

3 その他

(1) 最近5週における定点医療機関からの水痘患者報告状況

(表示は、「報告数(患者/定点)」単位:人)

	第19週 (5/6~5/12)	第20週 (5/13~5/19)	第21週 (5/20~5/26)	第22週 (5/27~6/2)	第23週 (6/3~6/9)
浦河管内	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00※
全道	0.46	0.27	0.48	0.26	-
全国	0.49	0.30	0.45	0.36	-

※第23週の患者報告数は速報値。

なお、確定値及び全道の流行状況につきましては、6月14日 (金) 以降に、北海道感染症情報センターのホームページで御覧になれます。

(URL:<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)

(2) 水痘注意報・警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診した水痘患者数が、国立感染症研究所において設定した注意報・警報レベルの基準値に達したときに発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

<水痘の注意報・警報レベル>

	注意報レベル	警報レベル	
	基準値	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数 (人)	1	2	1

(速報値) 咽頭結膜熱の流行について (警報)

令和元年(2019年)6月11日(火) 15時00分

北海道日高振興局保健環境部保健行政室
(北海道浦河保健所)
電話: 0146-22-3071

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和元年(2019年)第23週(令和元年(2019年)6月3日~6月9日)において、浦河保健所管内の定点あたりの咽頭結膜熱患者報告数が、警報基準である3人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、浦河保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 咽頭結膜熱の感染予防

患者との密接な接触を避けること、流行時には、うがいと石けんで手洗いの上、消毒用エタノールや速乾性手指消毒薬をすり込むようにして消毒します。

器具には、煮沸や次亜塩素酸ナトリウムでの消毒が有効です。

プールでは、水泳前後にシャワーでよく体を洗い流すことが大切です。

2 咽頭結膜熱とは

咽頭結膜熱はアデノウイルスによる感染症で、プールを介して感染する場合は、ウイルスが含まれた水が結膜に直接侵入して感染し、集団での発生が見られることからプール熱とも言われます。

患者の使用したタオルの共用や手指を介した接触感染、飛沫感染でも発症します。

咽頭結膜熱は、発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭痛、結膜の充血、眼の痛みや涙が流れる、光がまぶしく感じる、眼脂(目やに)等の症状が3~5日続きます。

これらの眼の症状は一般的に、片眼から始まり、その後もう一方の眼にも出現します。

年齢別には5歳以下に多くみられます。

季節によらず、年間を通じて発生しますが、6月頃から徐々に増えはじめ7~8月にピークになります。学校保健安全法施行規則では、主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止となります。

3 その他

(1) 最近の5週における定点あたり報告数(速報値)

(表示は、「患者/定点」単位:人)

	第19週 (5/6~5/12)	第20週 (5/13~5/19)	第21週 (5/20~5/26)	第22週 (5/27~6/2)	第23週 (6/3~6/9)
浦河管内	0.00	3.00	1.00	1.00	3.00※
全道	0.69	0.55	0.93	0.86	—
全国	0.49	0.43	0.64	0.63	—

※第23週の患者報告数は速報値。

なお、確定値及び全道の流行状況につきましては、6月14日(金)以降に、北海道感染症情報センターのホームページで御覧になれます。

(URL: <http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)

(2) 咽頭結膜熱の流行開始・注意報・警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診した咽頭結膜熱患者が、国立感染症研究所において設定した注意報・警報の発令基準値を超えた場合に発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

<咽頭結膜熱の警報レベル>

	警報レベル	
	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数(人)	3	1